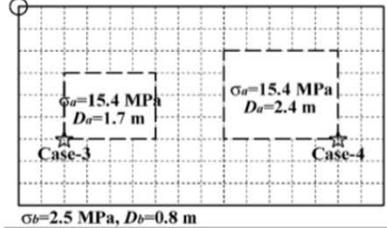
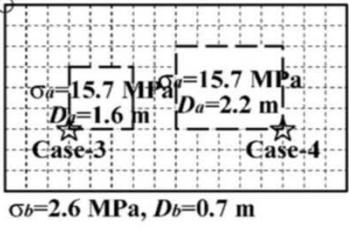


正誤表

「地図編・震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）」に掲載しているパラメータ表またはモデル図に誤記がありました。詳しくは下表をご覧ください。なお、これらについては、表記の誤りであり、計算に使用したパラメータに誤りはありません。

全国地震動予測地図2017年版（平成29年4月27日公表） 地図編・震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）				
ページ	断層モデル名	正誤内容		
		項目	誤	正
170	平山－松田北断層帯	・パラメータ表のアスペリティ1の計算用面積	「6×4」	「4×6」
174	北伊豆断層帯	・パラメータ表の下記項目 すべり角の設定方法 静的応力降下量の設定方法 短周期レベルの設定方法 全アスペリティの面積の設定方法 全アスペリティの実行応力の設定方法	「逆断層」 「 $\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3)$, $R = (S_{model} / \pi)^{1/2}$ 」 「 $A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$ 」 「 $S_a = \pi r^2$, $r = (7\pi/4) \cdot [M_0 / (A \cdot R)] \cdot \beta^2$ 」 「 $\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$ 」	「左横ずれ断層」 「Fujii and Matsu'ura (2000)」 「 $A = 4\pi \cdot r \cdot \Delta\sigma_a \cdot \beta^2$ 」 「 $S_a = 0.22 \cdot S_{model}$ 」 「 $\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S_{model} / S_a) \cdot \Delta\sigma$ 」
184	那岐山断層帯	・パラメータ表の下記項目 断層モデル原点緯度 地震発生層の下限深さ	「1.000」 「20」	「35.171」 「15」
190		・パラメータ表のアスペリティ1の下記項目 面積 平均すべり量 地震モーメント 計算用面積	「116.3」 「2.0」 「7.27E+18」 「14×8」	「77.5」 「2.2」 「5.37E+18」 「10×8」
191	長者ヶ原－芳井断層	・ケース3, 4のモデル図	別の断層モデルの図を掲載している 	
224	菊川断層帯 北部区間＋中部区間	・パラメータ表の下記項目 単位区間平均すべり量の設定方法 アスペリティ1の中部の計算用面積	「 $S_{model\ seg} = L_{model\ seg} \times W_{model\ seg}$ 」 「16×14」	「 $D_{seg} = M_{oseg} / (\mu \cdot S_{seg})$ 」 「20×12」
226	菊川断層帯 中部区間＋南部区間	・パラメータ表の下記項目 単位区間平均すべり量の設定方法 アスペリティ1の中部の計算用面積	「 $S_{model\ seg} = L_{model\ seg} \times W_{model\ seg}$ 」 「14×12」	「 $D_{seg} = M_{oseg} / (\mu \cdot S_{seg})$ 」 「18×10」
230	岩国－五日市断層帯 己斐断層区間＋岩国断層区間	・パラメータ表の単位区間平均すべり量の設定方法	「 $S_{model\ seg} = L_{model\ seg} \times W_{model\ seg}$ 」	「 $D_{seg} = M_{oseg} / (\mu \cdot S_{seg})$ 」
232	岩国－五日市断層帯 五日市断層区間＋岩国断層区間	・パラメータ表の単位区間平均すべり量の設定方法	「 $S_{model\ seg} = L_{model\ seg} \times W_{model\ seg}$ 」	「 $D_{seg} = M_{oseg} / (\mu \cdot S_{seg})$ 」